

# 出張報告

報告日 令和4年4月22日

会派名	民友
報告者氏名	相澤宗一、佐藤和典
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	原産年次大会
日時	令和4年4月12日（火）14:00 ～ 13日（水）12:00
場所	東京国際フォーラム
調査項目等	原子力発電の最大限活用に必要な事業環境について
概要	<p>◆研修概要</p> <p>&lt;原子力発電の最大限活用に必要な事業環境とは&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力発電とエネルギー安全保障</li> <li>原子力産業を取り巻く環境</li> <li>原子力開発におけるファイナンス戦略</li> <li>イギリスの民生用原子力政策</li> </ul> <p>&lt;福島第一原子力発電所の廃炉進捗状況と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福島第一における廃炉・汚染水対策の現状と課題</li> <li>福島第一原子力発電所におけるALPS処理水放出の安全性に関するIAEAレビュー</li> </ul>
所感等	<p>【相澤宗一】</p> <p>人は魅力のあるところに集まるものであり、今の原子力に魅力はあるのか、魅力とは何かを考えさせられた。世の中の流れに乗ることは魅力の一つであり、難しいことに挑戦することもまた魅力である。原子力産業は後者の魅力は持つものの、前者においてはやや斜陽的なところがあるため、全体的な魅力が乏しくなるものと思う。</p> <p>福島第一事故を教訓に、安全安定運転を実績として積み重ねることが重要であり、そのためには運転プラントの保全活動の品質を幅広く支える産業基盤を維持向上させる必要がある。よって、若い技術者の力を遺憾なく発揮するためにも事業の継続が必要であり、将来の見通しを明確に示すことが魅力の向上に繋がる。再エネとの共存も視野に、カーボンニュートラルをポイントとすることが魅力にもなると考える。</p> <p>【佐藤和典】</p> <p>「原産」とは、日本原子力産業協会（所謂、原発推進団体）のことであり、主要活動の一つとして、国内外の参加者ととともに、「年次大会」を毎年開催している。</p> <p>その際の講義の中で、エネルギーや原子力開発・利用の重要な問題についての意見発表や討論を行い、参加者が認識や意識を共有することを目的としている。</p> <p>今回の各分野の専門的な議論を通して、私自身も改めて、原子力が備える能力と価値を最大限発揮させることが、日本・地域にとって重要だと認識した。</p> <p>また、柏崎市はものづくり産業が基幹産業としてあるが、もう一方の主要産業として、原子力の技術確保・革新は、気候変動対応や社会経済（地域経済）の発展に一層の貢献を果たすものと期待している。</p>

